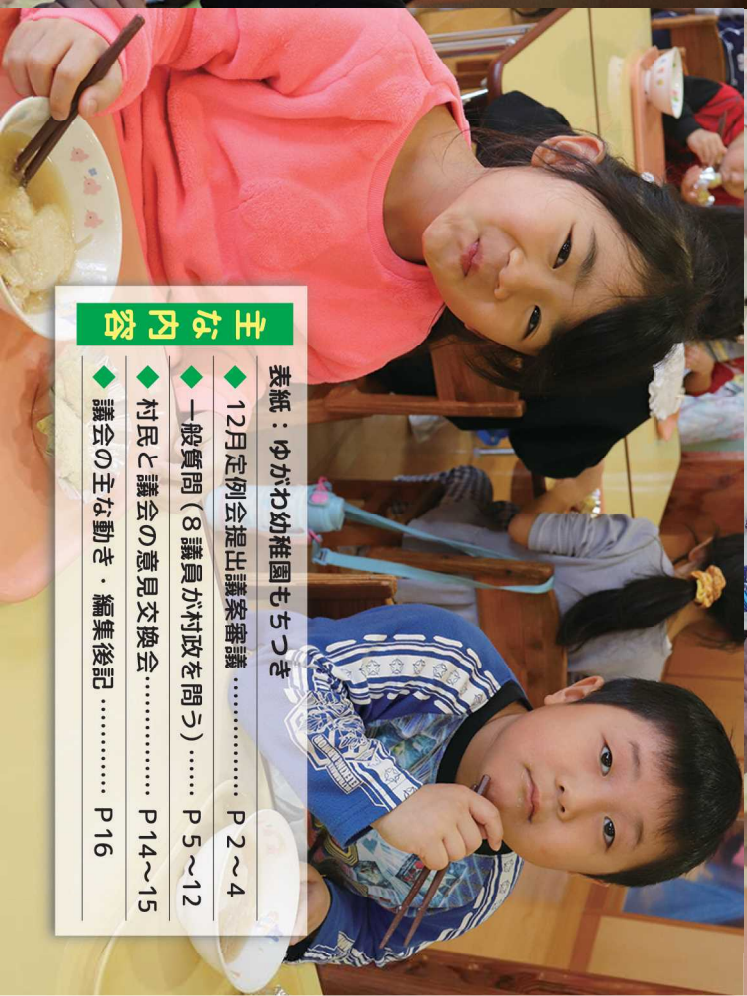




餅つきって
たのしいね！

令和3年
第116号
1月28日発行

議会だより



主な内容

表紙：ゆがわ幼稚園もちつき

- ◆ 12月定例会提出議案審議…………… P 2～4
- ◆ 一般質問（8議員が村政を問う）…… P 5～12
- ◆ 村民と議会の意見交換会…………… P 14～15
- ◆ 議会の主な動き・編集後記…………… P 16

議員定数1名減 10名→9名

今年4月の改選時から適用

12月 定例会

議会では、一昨年(2019年)の12月定例会において議会改革特別委員会から「議員定数を1名減とすべき」という報告があり、これまで全員協議会等でも継続して議論してきました。

今般、議員提出議案として議員定数を1名減とする議案が提案され賛成多数で可決されました。

これによって、今年(2020年)の4月に改選を迎える「議会議員一般選挙」においては定数が9名となることが決定しました。

提案理由

湯川村議会基本条例第1条にある「村民の負託に的確に応え、もって村民福祉の向上と村政の発展に寄与する」という目的を達成するために必要な議員は何人かという点について議論を重ねました。

人口減少問題、議員の成り手問題、住民視点、財政問題、類似団体との比較等々、様々な角度から検討を重ね、議会改革の一環として議員定数を10人から9人にする案を提出するものであります。

提出者 小林孝一議員

賛成者 小野澄雄議員、菅沼弘志議員、三澤榮三議員

◆反対討論 片桐英子議員

行政のチェック機能や政策提言など議会機能の向上が求められる。村民も高齢化や所得の格差など多種多様な支援が必要であり議員一人の能力には限りがある。報酬等を抑えながら、現議席を維持すべきである。

◆賛成討論 篠竹正弘議員

行財政の徹底した見直しと効率化を進めることは、喫緊の課題であり、議会議員の定数見直しは全国的な流れである。将来的な人口の動向を考慮し、現在より少ない議員数で議会の役割を果たすことが大切であると考えます。

12月定例会が12月11日から16日までの6日間の会期で開催されました。
村長から提案された条例改正をはじめ、補正予算や第五次湯川村振興計画(基本計画(後期計画))、議員提出議案など、17件が審議され、すべて原案どおり可決されました。

また、14日・15日の2日間行われた一般質問には、8名が登壇し三澤村政について問いました。
さらに、昨年の12月定例会で議会改革特別委員会から報告があった議員定数の削減について、今定例会に「定数1名減」とする議案が議員から提案され、賛成多数で可決されました。

〽傍聴者の声〽

湯川村老人クラブ連合会会長

桜井 憲幸 氏

私達、湯川村老人クラブ連合会は、本部役員研修会の一環として、11月の議員との「高齢者の生きがいづくり」等をテーマとした意見交換会に続き、12月定例議会を傍聴させていただきました。

我が湯川村の高齢化率は約34%。約千人の方々が高齢者の現状において、行政サービスの一方的な受け手でなく、議会や行政と共に考え、共にサービスを選び、共に提供していく視点で傍聴させていただきました。議会本来の役割である政策立案に住民意思を反映させるのか、多くの議員の皆さんが「高齢者の生きがいづくり」について、議員力を発揮している姿に本部役員一同、頼もしく感じられました。村議会が様々な課題に対し、一つになり活動されることを期待しております。

小中学生が本会議を傍聴

(勝常小)



「湯川村議会を傍聴して」

6年14番 氏名 胡拓真

湯川村議会関係の皆様方、先日は村議会を見学させていただき、ありがとうございました。

ほか、議会の様子を見学して思ったことは、議会の関係者の皆様方が湯川村のことや地域の人のために議会をされていて、とてもうれしかったです。しかも皆様方が、今のことだけでなく、これからのことも考えていてくれたことです。

ほかには幼稚園バスを日中走らせることに反対です。幼稚園バスを日中走らせてしまうと一年間で約600万円以上もかかってしまうからです。もし幼稚園バスの走らせる回数を減らすと、村のお金も増えてくることが、使える幼稚園バスが少なくなると、体力も上がり、小学校に行かなくなった時に運動ができて、肥満の子も減らせるので、議会関係者の皆様方には、湯川村の問題が大きくなる前に問題を解決してほしいです。

ほかには湯川村が今までよりも、もっと住みやすくなると思うので、とてもうれしく思います。

議会関係者の皆様方、これからも湯川村や地域の人のためにたくさん議会をして、日本一豊かで住みやすい村にしてください。



傍聴する笈川小学校6年生

笈川・勝常両小学校の6年生が12月議会定例会を訪れ、一般質問を傍聴しました。

皆さんからいただいた感想文の一部を紹介します。

(勝常小)



「湯川村議会を傍聴して」

6年1番 氏名 中島麻裕

湯川村議会関係の皆様方、先日は、村議会を見学させていただき、ありがとうございました。

私が議会の様子を見学して議員さん達が私達の村のために問題点について改善しようと議論しているのを知ってとてもうれしかったです。私は、特に空き家問題について興味をもちました。私の地区には空き家があるので、空き家を増やさないための工夫を議論して、しゃべったのにとっても感心を持って聞いてきました。

私が村の一人の村民として、空き家問題を解決するためには、空き家を、公共施設として利用したり、村長さんがおっしゃったようにインターネットを積極的に空き家問題を解決してほしいです。

この度は、村議会の見学の貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。この事を生かして、一人の村の村民として現在ある問題点を少しでも改善できるように協力できることは協力して、少しでも村の力になれるように、がんばりたいと思いました。



(笈川小)

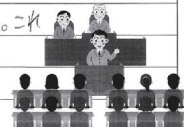
湯川村議会を傍聴して

私は議会を見学して、湯川村のことや、私たちの生活のことなどを、たくさん意見を出し、考えてくださるのだと思います。

高れい化が進んでいると農家が、できていることはいいことだと思います。

そして、私は図書館のような静かに本を読んだり、勉強ができる場所があるといいと思います。ゲームの方が好き。や、本が嫌い。という人も本のことが好きになるかもしれないと思いました。

私は議会をするの大切さを改めて知ることができました。これから湯川村、私たちのためによろしくお願いします。



笈川小学校 6年 名前 薄希

)



勝常小学校6年生

(笈川小)

湯川村議会を傍聴して

ぼくたち村民のためにたくさんのこととを考えて、いろんな自然や、湯川村の活性化のことについて考えてくれているんだと初めて思いました。

ぼくたちがこの湯川村を明るく元気な村にして、いかにいいと改めようと思いました。

ぼくは最近湯川村には、ゴミが多い、はいて落ちているなど、思っていました。そのことについて、しっかり議会でも話し合っていたので、ぼくは、ただ議会をして話し合いをしてい

るのではなく、湯川村をしっかりと話し合いをして、い

ること、加えたいと思いました。



笈川小学校 6年 名前 佐藤 慧大

)

第538回 10月臨時会における議員の賛否の公表

(湯川村議会基本条例第4条6項に基づき公表いたします。)

議案番号	件名	賛否	1 小沢甲市	2 片桐英子	3 三澤榮三	4 高倉好博	5 菅沼弘志	6 小野澄雄	7 小林孝一	8 小野淳一	9 篠竹正弘	10 斎藤賢一
75	村長等の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について	可決	○	○	○	×	×	○	○	○	○	議長
76	令和2年度湯川村一般会計補正予算(第5号)	可決	○	×	○	○	○	○	○	○	○	議長
77	令和2年度湯川村小中学校学習用タブレット端末購入契約について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長

第539回 11月臨時会における議員の賛否の公表

(湯川村議会基本条例第4条6項に基づき公表いたします。)

議案番号	件名	賛否	1 小沢甲市	2 片桐英子	3 三澤榮三	4 高倉好博	5 菅沼弘志	6 小野澄雄	7 小林孝一	8 小野淳一	9 篠竹正弘	10 斎藤賢一
78	議会議員の議員報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について	可決	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
79	村長等の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について	可決	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
80	職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について	可決	欠	×	○	○	○	○	○	○	○	議長
81	令和2年度湯川村一般会計補正予算(第6号)	可決	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
82	令和2年度湯川村小中学校大型提示装置(モニター)購入契約について	可決	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
83	令和2年度湯川村Web会議用タブレット端末整備一式に係る契約について	可決	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	議長

第540回 12月定例会における議員の賛否の公表

議案番号	件名	賛否	1 小沢甲市	2 片桐英子	3 三澤榮三	4 高倉好博	5 菅沼弘志	6 小野澄雄	7 小林孝一	8 小野淳一	9 篠竹正弘	10 斎藤賢一
84	湯川村議会議員及び湯川村長の選挙における選挙運動の公営に関する条例について	可決	欠	○	○	○	○	○	○	欠	○	議長
85	湯川村税条例の一部を改正する条例について	可決	欠	○	○	○	○	○	○	欠	○	議長
86	湯川村国民健康保険税条例の一部を改正する条例について	可決	欠	○	○	○	○	○	○	欠	○	議長
87	湯川村指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について	可決	欠	○	○	○	○	○	○	欠	○	議長
88	湯川村後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例について	可決	欠	○	○	○	○	○	○	欠	○	議長
89	第五次湯川村振興計画(基本計画(後期))について	可決	欠	×	○	○	×	○	○	欠	○	議長
90	令和2年度湯川村一般会計補正予算(第7号)	可決	欠	○	○	○	○	○	○	欠	○	議長
91	令和2年度湯川村国民健康保険特別会計補正予算(第3号)	可決	欠	○	○	○	○	○	○	欠	○	議長
92	令和2年度湯川村特定環境保全公共下水道事業特別会計補正予算(第2号)	可決	欠	○	○	○	○	○	○	欠	○	議長
93	令和2年度湯川村介護保険特別会計補正予算(第2号)	可決	欠	○	○	○	○	○	○	欠	○	議長
94	令和2年度湯川村後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)	可決	欠	○	○	○	○	○	○	欠	○	議長
95	湯川村固定資産評価審査委員会委員の選任につき同意を求めることについて	同意	田部正利(佐野)									議長
96	湯川村固定資産評価審査委員会委員の選任につき同意を求めることについて	同意	片桐豊司(中台)									議長
97	令和2年度湯川村一般会計補正予算(第8号)	可決	欠	○	○	○	○	○	○	欠	○	議長
議員提出7号	令和2年度湯川村議会行政調査の実施について	可決	欠	○	○	○	○	○	○	欠	○	議長
議員提出8号	国の制度として「20人程度学級」を展望した少人数学級の実現を要望する意見書について	可決	欠	○	○	○	○	○	○	欠	○	議長
議員提出9号	湯川村議会議員定数条例の一部を改正する条例について	可決	欠	×	○	○	○	○	○	欠	○	議長

*「○」は賛成、「×」は反対、「欠」は欠席、議長は議決に加わらないため議長裁決以外は「議長」と表記。

村政を問う

一般質問

12月定例会

片桐 英子
議員**問**

主食用米を生産している農家にとって、今年度の米価の大幅な下落と、異常気象による収量減のダブルパンチを受け、暮らしにも大きな不安を募らせている。

この現状に村はどのような対策を考えているか。

答

本年度予算を計上している村の農家支援金等では、例年より早く10月中旬に交付した。現在策定を進めている農業振興ビジョンにおいても、次年度以降、引続きこのような状況に対応できるよう施策を盛り込みながら進めたい。

農業ビジョン 中・小規模の家族経営を支援

問

農業を維持するため、農家が再生産できるように支援が必要だが、そのための政策はどう考えているか。

答

農家の大半を占めているのが、中・小規模の家族経営の農家である。将来的に村全体の農業

を維持していくためには、大規模農家はもちろんのこと、このような中小家族経営体の活躍も必要であると考えており、今後策定する「湯川村農業振興ビジョン」

の中でもこのような支援・対策を明記しながら、今後の事業の展開について検討している。

問

コロナ禍の対応に ついて、施設での感染、クラスターの発生を防ぐためにPCR検査が求められているが、本村での対応はどのように考えているか。

答

施設入所者、通所者へのPCR検査の実施又は費用の支援を行う予定はないが、国又は県からの情報提供を随時行い、感染拡大予防を実施している。

管理栄養士は正職員で採用を！

問

管理栄養士の配置について、昨年9月定例議会では臨時職の管理栄養士を雇うと答弁してい

るが、8ヶ月経過しても採用されない。栄養指導業務に配置をきたすので、早急に配置を検討すべきと考えが見解を伺う。

答

令和2年度に1名雇用する予定だったが、辞退されてしまった。現在は、昨年度退職された栄養士職員に週3日引き続き勤務を依頼し、業務に支障が無いよう保健師と連携をとりながら事業を行っている。

問

会計年度任用職員では応募がないのではないか？正職員を採用すべきと考えるが？

答

業務量からして会計年度任用職員で十分可能と考えている。

問

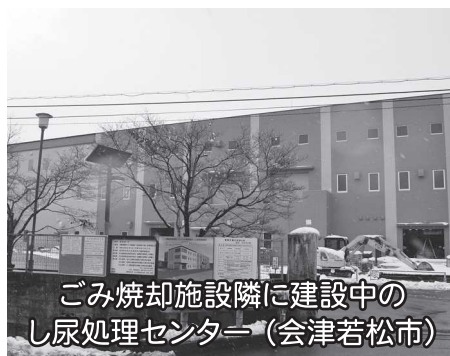
ごみ減量について、2025年には処理容量の少なくなった焼却炉になる。本村では、2割減を目標としているが、住民の協力なくしてはできない。今後、どのような計画で減量を進めていくのか伺う。

答

令和7年度に向け、たごみの減量実施計画内容としては、古紙類、特に「雑がみ」と「布類」の資源化の強化であり、この品目を減らせば、可燃ごみの減量につながると思っており、今後、ごみの分別について周知を強化し、集団回収等を利用して、資源化できるものへと移行できるように減量化対策を進めてまいりたい。



上記QRから動画で
ご覧になれます。



ごみ焼却施設隣に建設中の
し尿処理センター（会津若松市）

村政を問う 一般質問

12月定例会

高倉 好博
議員



農業振興ビジョン 2月中に策定

問 湯川村の目指す農業について、今後の湯川村農業政策の基本となる計画を示してほしい。

答 現在、村の農業政策の基本計画である「湯川村農業振興ビジョン」の素案の作成及び検証を行っている段階であり、年明けには、議員の皆様への説明や意見等もいただきながら、さらに検証した上で、2月中に正式に策定し、次年度以降の事業展開へつなげていきたいと考えている。

計画期間は、5年後を目標とした上で、村農業における各分野の「現状」と「課題」及び「強み」と「弱み」をそれぞれ洗い出し、「課題の解消」、「強みの強化」、「弱みの克服」に向けて、様々な農業振興施策を展開することにより、魅力ある湯川村農業の持続的な発展と優良農地の保全を目指す。

ことを主眼において計画策定を進めている。

問 地元業者の利用度合いについて、各種事業者、企業、建設組合など、村の公的な場に利用した件数がこの3か月でどのくらいか。

答 施設における地元業者の利用度合いは、工事等件数において公営住宅の修繕については、5件中1件で20%、村道の補修、修繕工事については、9件中9件で100%、農村公園の維持管理については、2件中2件で100%である。

問 村民の中にも事業者がいる。他市町村の同業者に仕事を依頼した例があるようだが地元業者育成についてどのように考えているのか？

答 大変残念なことであり二度とないようしたい。地元事業者は地

域のことを熟知しており、いざというときに頼りにしなければならない。今後も地元事業者の育成、発展のため、地元事業者を優先していく。

子どもの活字媒体離れ 図書機能の充実を！

問 教育環境について、少子化が進む中、これからの学校教育環境についてどんな考えを持っているか。

答 【教育長答弁】 教育委員会においては、地域とともにある学校づくりに取り組もうとしている。専門的な知識や技術をお持ちの村民の方に、農作業や奉仕活動の協力、交通安全の見守り隊などをお願いするものである。

問 環境整備に欠かせないのは図書館の整備である。ユースピアが

わの図書機能の充実についてどのように考えるか。

答 子どもが活字媒体から離れることが心配である。小学生は1カ月で5.6冊読んでいるが、中学生になると数字にならないような数字になってしまう。図書館があるに越したことはないが、今後はいい図書を充実していきたい。



菟川小学校の図書室



上記QRから動画で
ご覧になれます。

村政を問う

一般質問

12月定例会

三澤 榮三 議員



問

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う新たな取組みについて、近隣市町村では感染者が急速に拡大しているが、本村では今後どのような対策を考えているか。

答

今後、新型コロナウイルスウィルスワクチン接種を含め、国の対策に対応できる体制、予算を充実しながら、引き続き、基本的な「新しい生活様式」の啓発、3密対策を実践していく。

問

成人式 参加者のPCR検査は困難
本年1月には、成人式があるが、県外から成人式に出席する方の予防対策はどのように考えているのか。PCR検査も必要であると思うがどうか。

答

式の内容について、規模縮小と時間短縮

を図るため、来賓の数を減らし、式後の村長講話や飲食の提供を中止とした。手指消毒や換気の徹底など安全性の確保を最優先に考え開催する予定だが、PCR検査の実施については、検査を実施することの有効性、検査機関への手続きや対応、費用負担など様々な問題が多くあることから難しいと考える。

サロン機能として
介護予防教室を活用

問

高齢者の福祉向上と生きがいづくりについて、去る11月17日に道の駅の会議室において湯川村老人クラブ連合会本部役員11名と村議会議員で意見交換会を実施した。議題は「本村の高齢者の福祉向上」「高齢者の生きがいづくり」である。「福祉の充実については財政的な支援のみで連携していく動きがみられない」「人とのふれあいの

場が必要である」「村営スパー兼カフェが必要である」などたくさん意見があった。

そこで、高齢者が元気で生き生きと暮らせるよう各集落にいつでも集まれるサロン機能（お茶のみ場）をつくる考えはあるか。高齢者が運動機能を維持回復できるトレーニング施設を設置する考えはあるか。

答

各集落でのサロン、トレーニング施設の設置について、財政的に建設は非常に厳しい状況である。しかし、現在24集落23団体で実施している介護予防教室は341名の参加者があり、教室へは村保健師、包括支援センター職員が出向き、体操・講話を行いながら、サロン機能を果たしていると思う。すべての高齢者が集える状況ではないが、情報交換の場にもなっている。

村としては、村社会福祉



上記QRから動画で
ご覧になれます。



介護予防教室で元気に運動する参加者

協議会に委託しているミニデイサービスや今年度実験的に行った買い物支援、老人クラブ事業への支援や生涯学習を通して高齢者が元気で暮らせるよう支援を行ってきた。

村政を問う 一般質問

12月定例会

篠竹 正弘
議員



問

住み慣れたこの村で、村民、高齢者が快適に安心安全で充実した生活ができるかについて、まず、村長が言っている「元気老人がいっぱい」の村の具体策、成果、今後について伺う。

答

代表的な具体策は、介護予防教室である。現在、教室を実施している集落は24集落23団体であり、参加人数は341名いる。教室へは村保健師、包括支援センター職員が出向き、体操・講話を行いながら、サロン機能を果たしている。

問

安心安全な福祉サービスについて、コロナ禍のなか自宅時間も増え、成りすまし詐欺等が心配されるが対策は？また、車が欠かせない本村では、高齢者の事故防止の観点から、県道、村道含め道路の補修、横断歩道、停止線、白線等速やかな修復が必要

と考えるが、防犯、交通安全について伺う。

答

悪質な詐欺に対し、村では随時警察と情報共有し広報等で住民へ周知している。

また、道路の補修については道路管理者、横断歩道や停止線等の交通安全については、公安委員会が管轄となるので、日頃から道路管理者並びに警察署と連携を密にして迅速に対応していただけるよう調整している。

医療従事者への村独自の支援 現段階では無し

問

コロナ対策について、今なおコロナ感染症が広がりをみせ、全国的に医療機関の緊迫さが感じられる。そこで、本村の医療従事者の方々も、感染リスクに直面しさまざまな行動制限もある現状のなか、その労に感謝し県からの慰

労金とは別に、村からの慰労金もあつて良いと思うが考えを伺う。

答

医療従事者の方々へ深く敬意と感謝の意を表するところである。県では医療従事者へ国の実施要綱に基づき慰労金を給付しているが、県内市町村独自の慰労金の給付実績はないものと把握しており、本村においても独自の給付は考えてない。

県道浜高線整備 早期完了を！

問

道路整備について、津若松線の浜崎地区バイパス工事の進捗状況について伺う。

答

県では今年7月において、交通量調査を実施し、現況交通量の分析を行った。今後、具体的な方

向性を検討するため、まずは村と現状を共有することで進めていく方針であると聞いている。

村としても、今後も引き続き県と連携し、また、浜崎地区と県との仲介役として調整に努め、バイパス工事の具体的方向性が図れるよう取り組んでいく。



狭隘となっている
浜崎集落内の県道浜高線



上記QRから動画で
ご覧になれます。

村政を問う

一般質問

12月定例会

小野 淳一
議員

高齢者の医療費はソフト面で支援

問

高齢者の医療費負担（国民健康保険加入者及び後期高齢者医療加入者）について、村として独自支援の考えはあるか同う。

答

高齢者の医療費負担については、後期高齢者関連の負担が、1割負担から2割負担へ引き上げる議論が現在行われており、引き上げとなれば、高齢者の生活を圧迫することになってしまう。

後期高齢者医療費の財源は、公費負担割合が5割だが、村は令和元年度において4,673万5千円を負担しており、国民健康保険では、所得に応じて7割、5割、2割軽減措置を行っている。

村としては、金銭面等の単独の支援は財政的に厳しい状況であり、助成金等の支援ではなく、ソフト面で

の支援を充実していきたいと考えている。

問

家族が医療機関を受診した場合に、世帯主の所得の関係で高額となってしまう例がある。村として何とかならないのか？200万円の所得を少しでもオーバーしてしまうと2割になってしまう。何とかならないのか？

答

全国一律となっている制度で村独自の助成は難しいと考える。ソフト面で援助し医療機関にかからないような施策を講じていきたい。

問

今まで議会から提言された政策や一般質問での提言等について、村としてどの程度実現してきたか同う。

答

言うまでもなく議会からの提言や要望は、村民を代表する声として捉え、村としては、その

内容を真摯に受け止め、精査し可能な限り実施してきた。直近の事例では、平成30年12月に出された「村内における防災についての要望書」にあった、防災行政無線の整備にあたり、個別受信機を全世帯に配備されたいという内容について、現在その方向で実施しているところである。

また、今般の新型コロナウイルス感染症対策については、国から交付された財源を活用し、概ね議会議員の皆様から提案いただいた施策は、実施できているものと思っている。

しかしながら、ほかの項目では、財政面や様々な障害により、実現できなかった事項も多くあったかと反省している。

今後、可能な限り議会からの提言や要望の実現に向け、村政を執行してまいりたい。

問

亀ヶ代から中ノ目の国道49号線までの

村道を県道へ格上げすることについて、村長と副村長で話し合い、必ず実行していただきたいと思うがどうか。

答

町村道から県道への格上げの事例は最近なく難しいと考えるが要望として県に繋いでいきたい。



亀ヶ代から中ノ目地内の
国道49号線までの村道



上記QRから動画で
ご覧になれます。

村政を問う 一般質問

12月定例会

菅沼 弘志
議員



問

高齢者福祉政策について、2000年に介護保険制度が始まって20年が経過した。度重なる制度改正により利用料の引上げ、サービスの低下など様々な問題を抱えながら今日に至っている。そこで伺う。

(1) 介護保険制度について

答

本村では制度開始年度に湯川村デイサービスセンター、平成20年にグループホームあじさい、平成23年に特別養護老人ホームいちようの木、平成29年にはデイサービスセンターみるくが開所されました。低所得者に対しては、利用者負担の上限が設けられ、利用料引き上げによる影響がないようになっている。

(2) 介護難民、老老介護の実態と対策について

答

本村では介護難民となっていない方はな

く、老老介護については、月1回の福祉各担当職員による連絡会議や、地域包括支援センターによる75歳以上の方のみの世帯への訪問などにより、相談にのっている。

(3) 引きこもりの支援について

答

本村は農村地域であり、昔から集落内の結びつきが強い地域の特徴があり、地域の中でお互いを見守り、支え合う関係を一層深められるよう地域づくりを図っていききたい。平成29年度からは、村社会福祉協議会に委託しミニデイサービス「ハッピーデイ」を実施しており、生活意欲の向上を図ることができている。

人口は減少傾向 ごみは増加傾向

問

廃棄物処理政策について、人口減少社会の中でも「ごみ」は増加

の一途を辿っており、海洋プラスチックごみ問題が大きくクローズアップされている。そこで伺う。

(1) 一般廃棄物処理について

答

村の人口は減少傾向にありますが、ごみの量は比例してない。

古紙類の紙製容器包装は、紙マークの付いた包装紙や菓子箱等を紙袋に入れて出すことができ、このような可燃ごみ減量につながる具体的な方法などを紹介し、ごみ分別の周知徹底を図りたい。

(2) 循環型社会、持続可能な社会の実現について

答

循環型社会・持続可能な社会の実現については、リデュース・リユース・リサイクルの「3つのR行動」をとることが大切である。

また、エス・ディー・ジーズに取り組む課題の中で

も、持続可能な社会の実現に向けて目標が掲げられており、村では古紙類、特に雑がみと布類の資源化について強化し、ごみの減量化に繋げ、循環型社会・持続可能な社会の実現に向け貢献したい。



上記QRから動画で
ご覧になれます。

村政を問う

一般質問

12月定例会

小野 澄雄
議員

問

本年度事業に対する政策評価と次年度予算編成について次の事項について伺う。
高齢化社会に向けての政策について

(ア) 交通弱者問題について

答

交通弱者対策としてタクシー券を1人当たり18,000円交付しており、昨年度からは、一部のバス路線でも利用できる助成券として交付している。

また、本年度は、村社会福祉協議会が交通弱者支援の一つとして買い物支援を実験的に浜崎・勝常集落において実施したが、次年度への事業として協議していきたい。

【意見】

幼稚園バスの委託業務を直営に変え、村内巡回バスを併用する等、多様な交通システムを組み合わせて独自の交通手段を構築すべきでないか。

(イ) 空き家問題について

答

本村の空き家戸数は、令和2年12月1

日現在で71件となっている。村では、空き家は所有者個人の資産であることを基本とし、引き続き管理不全と思われる空き家については、所有者等への適正な管理、若しくは解体のお願いを行うとともに、空き家・空き地バンク等の活用による情報提供により利活用を推進し、地域の住環境維持に努めてまいりたい。



老人クラブ連合会活動の様子

(ウ) 高齢者の社会参加について

一人暮らしの高齢者が増えています。外出を促す環境整備、参加のきっかけを提供する必要があるのではないかと。伺う

答

介護予防教室をはじめ、老人クラブ活動の活性化を支援し、社会

教育、文化活動、ボランティア活動の充実を図り、シルバー人材センター活動への参加等、社会活動に参加できるよう環境づくりと地域づくりを進めていく。

農業所得向上に向けた農業政策について

問

コロナ禍による消費費減少が、令和3年度の米価に大きく影響することが考えられる。需給調整と価格対策について伺う。

答

村では、一過性ではなく様々な選択をした農家等にも寄り添える支援体制を構築し、需給調整に向けた取組みが必要であると認識している。

今後策定する「湯川村農業ビジョン」において、米のブランド化や販路拡大対策等も含め、生産・販売・流通等全体に渡り安定した対策、支援に努めたい。

会計年度任用職員並びに非常勤特別職の待遇について

問

働き方改革は、同一労働同一賃金の考え方であり、庁舎内の会計年度任用職員においても、業務内容を責任あるものに

転換していくことが大事である。それが働きたいにつながり、職員の負担軽減にもつながる。業務内容を検討する必要があると思うが、如何。

答

責任の度合いも変わってきている。例えば給料は若干上がり、村の公務員として認識してもらうため職務の宣誓も行った。会計年度任用職員には責任の度合いを十分に理解していただいていると考える。

【意見】

地域のつながりが希薄化し村民の直面する課題の複雑多様化する高齢化社会において、民生委員の仕事内容は幅広く重要性を増しています。ボランティアだけでは片づけられないと考えます。待遇改善を検討すべき。



上記QRから動画でご覧になれます。

村政を問う 一般質問

12月定例会

小林 孝一
議員



主食用米の目安面積 7haの深堀達成

問 今年度稲作の総括と次年度稲作のあり方について、まず今年度稲作をどの様にとらえているか。

答 村の作付け状況については、当初村で設定した主食用米の目安面積761ヘクタールに対して政府備蓄米作付けへの協力を推進し、結果的に主食用米作付面積は754ヘクタールと約7ヘクタールの深堀りとなった。しかし、米価の下落、倒伏による品質の低下等に加え、次年作に向けた課題が山積している状況であり、今後早急に解決策を検討していきたい。

問 次年度の稲作についての問題とその対策は？

答 全国的に人口減少・高齢化や一人当たり

の消費量減に加え、今回のコロナ禍により、米価が史上最低水準を記録することもある想定される。

村においては、次年度の対策について例年より早いスピードで農家の方々へ説明し、可能な限り協力をいただけるよう、村の出来る限りの支援も検討していく。

問 目標とする村農業の姿は？

答 農業振興ビジョンの大きな柱として次の3つをあげている。

- ①担い手の育成・確保、農地の集積・集約化と有効活用等の事業の推進
- ②農業経営の安定化と振興作物の産地化、販路の拡大、特色ある農業の推進
- ③農村環境の保全と農業基盤の整備、移住・定住及び地域間交流の推進

村農業再生協議会の 役割 今後重視

問 村再生協の位置付けと役割は何か？

答 湯川村地域農業再生協議会は、私を会長とし、「会津みどり地域農業再生協議会」の下部組織として位置づけられているが、湯川村内の農業関係団体等の調整や取りまとめ等において、村当局だけでは実施できない大きな役割を担っている組織と認識している。

以前は、会津みどり農協の支店職員が主体となつて、役場職員と連携し事務局業務を担っていたが、農協の合併等もあり、現在、中心となる事務職員が不足しているのが現状である。しかしながら、今現在おかれている水田農業の重要性を鑑みれば、この協議会は、村内農業関係者との連携・調整を統括する非常に重要な組織でなければならないと

感じており、現在の人員体制についても再検討しなければならず、今後、この協議会が村内の農業の調整機能が十分発揮できるような組織となるよう努めて参りたい。



村地域農業再生協議会事務所がある
農業技術センター(JA2F)



上記QRから動画で
ご覧になれます。

総務文教常任委員会 学校訪問 令和2年11月26日

総務文教常任委員長 高倉好博

今年の学校はコロナウイルス感染症という感染がまん延し始めた入学時からいきなりいまだかつてない状況からの始まりでした。その後は順調に学校生活も送ることができるようになり夏休みこそ短めでしたが現在に至っている状況である。今回はそんな中での3校の学校訪問になりました。

まず学校経営及び運営の現状と問題点等についての調査、教育現場の声を直接聞くなど今回は現在にくるまでの課程についてなど話を聞くことができました。

話の中では何カ月も休みになったその分の教科をどこで取り戻されるか心配の中何とか元の生活に戻れましたと安堵の様子で各学校とも話していただきました。大変だった様子も伺われましたが、それぞれの学校で苦慮しながらやってきた先生方に対して感謝の気持ちしかありません。今回の学校訪

問は各学校とも30分足らずの訪問でありましたが、それぞれの学校から意見も出され有意義な学校訪問ができたと思います。



校長先生より説明(勝常小)



パソコンを使っの授業(笈川小)

被災地研修(双葉町) 東日本大震災 原子力災害伝承館 令和2年11月10日

経済常任委員 菅沼弘志

11月9日に湯川村議会の被災地研修を実施いたしました。

東日本大震災から10年を迎えている現在、県民の誰しもが忘れてはならず、この大災害を風化させないためにも大切な研修となります。

本来なら、現地で被災された現場の声をつぶさに調査して受け止める必要がありますが、コロナ禍の中、限られた時間の中で、今般、福島県が整備した「東日本大震災・原子力災害伝承館」、さらに、いわき市が整備した「いわき震災伝承みらい館」を視察して参りました。

10年前の3・11からの時間を追った第1原発の詳細な様子や新聞記事、緊迫した中での県職員の奮闘ぶりなどを学習できたことが大きな成果でした。

また、津波による被害から街が復興していく様子や道路や建物が

再建設される風景などをじかに拝見し、まだまだ復興は道半ばとの思いを改めて感じさせられました。同時に、県内の原発全機廃炉を確実に成し遂げながら、再生可能エネルギーの普及、温室効果ガス排除を福島県、湯川村で先頭に立ち訴えていかなければならないとの思いを強く持ちました。



研修を受ける議員団



東日本大震災・原子力災害伝承館にて

『村民と議会の意見交換会』

『湯川村老人クラブ連合会と議会の意見交換会』

令和2年11月17・18・19日

議会では、信頼される議会を目指して、議会の活動報告と、村民の意見や提言等を直接聴取する機会として、毎年、意見交換会を開催しており、今年度は、11月18・19日に笈川、王領、勝常集落へ出向き、村政の様々な課題について意見を交わしました。

また、11月17日に湯川村老人クラブ連合会の方々と「高齢者の生きがいづくり」について意見交換をし、老人クラブの現状や日頃から村に対して思っていることなど、いろいろな角度から要望や提言をいただきました。

いただいた意見等は、早速議会で取りまとめ、今後の議会運営、村政全般の課題とし、12月28日付で村長へ要望書を提出しました。

老人クラブ連合会



【主なご意見等】

公民館長を廃止してしまったが社会教育を充実するためには必要である。復活してもらいたい。

道路のつなぎ目が荒れている。勝常王領線のグレーチング。白線も消えている。八日町の高規格道路の白線なども見えない。目を配ってもらいたい。



河東町のプール利用の助成券があるが子どもに援助してはどうか。もしくは小中一体のプールはできないのか。提案である。

筧川集落

交通マナーについて ①駐在所の前でほとんどの車が停止しない。②松川の交差点から筧川のT字路の場所にバイパスができる前の標識がまだ残っている。③大型車が通ると農道の舗装面が荒れる。④湯川北で降りる車が多く、そこから王領⇒八日町という流れがあり、交通量の流れが変わってきている。

道の駅の野菜出荷者について10年後はいなくなってしまう。村としてどのように後継者を育てていくかを考えてもらう必要がある。

兼業だと担い手にもなれない。担い手じゃないと補助もない。それはおかしい。湯川ファームの後継者を育てることも急務。

王領集落

小学校が2つあるが議会としてどう考えているのか？何がネックなのか？子供には罪はない。（両方維持することは）予算の無駄である。どちらかに動かすのか、新たな場所にするにしても、方向付けを早くしないといけない。



せせなぎ川の王領橋から北の河川が水害の危険性がある。整備が全然進んでいない。

村に図書館がなく、子どもたちが勉強できる場所がない。

勝常集落

農業のオペレーターの育成が急務。田んぼの中間管理は経験がないと難しい。機械のオペレーターは田植え、稲刈りについては若い人のほうが機械慣れすると思うので、機械に興味のある人を引き込んで育てるのが今後の農業のやり方の一つではないか。

高齢者の兼業農家が増えており、専業農家の後継者がいないのは、生活の面での専業農家が成り立たないからではないか。



湯川村議会の主な動き

10月21日	広報広聴委員会
22日	第538回湯川村議会臨時会 全員協議会 総務文教常任委員会
26日	例月出納検査
29日	議会だより第115号配布
11月6日	議会全員協議会
9日	被災地等研修
～10日	
13日	両沼地方町村議会事務局長会議
16日	例月出納検査
17日	湯川村老人クラブ連合会との意見交換会
18日	定期監査 村民と議会との意見交換会（笈川、勝常）
19日	定期監査 村民と議会との意見交換会（王領）
20日	定期監査 全国過疎地域自立促進連盟定期大会
24日	第32回両沼地方町村議会議員大会決議事項中央要望
25日	第62回町村議会議長全国大会 写真 湯川村戦没者慰霊祭 写真 議会総務文教常任委員会所管事務調査（学校訪問） 議会運営委員会
30日	第539回湯川村議会臨時会 広域圏11月臨時議会
12月2日	湯川村自治功労表彰式、定期監査報告
4日	議会全員協議会 議会運営委員会
8日	市町村対抗野球・ソフトボール大会村旗返還式
11日	第540回湯川村議会定例会 写真
～16日	
18日	例月出納検査
1月9日	令和2年度湯川村成人式 写真
13日	議会全員協議会 広域圏議会全員協議会 農業振興ビジョンに係る意見交換会
15日	会津を拓く講演会 県町村議会議長会正副会長・理事・監事合同会議 交通安全祈願祭



第62回町村議会議長全国大会



湯川村戦没者慰霊祭



第540回湯川村議会定例会



令和2年度湯川村成人式

議会広報広聴委員会

高菅小	片	篠
倉沼林	委	竹
好弘孝	員	正
博志一	員	弘

（片桐英子）

コロナで始まり、感染拡大で終わった2020年。ある高齢者世帯では、首都圏に住む子どもが年間数回帰省して、親のきない家内外の仕事をしていました。帰省は叶わず親も子も我慢の1年でしたが、まだまだ延長するかも知れません。

だからこそ、身近な所で高齢者を支える仕組み作りが必要です。介護保険では生活支援コーディネートターを設置させ、住み慣れた地域で長く暮らせるように支援することとしています。本村では協議体「さすけね会」を立ち上げ、試みに買い物支援をしました。今後、どのような支援ができるか、形にしていただけだと思います。

編集後記